

十勝毎日新聞

発行所
 十勝毎日新聞社
 ©十勝毎日新聞社 2004
 〒080-8688
 帯広市東1条南8丁目
 TEL(代表)0155-22-2121

編集局 0155-22-2121
 広告局 0155-23-2322
 販売局 0155-24-2222
 事業局 0155-22-7555
 総務局 0155-24-2299

広尾支局 01558-2-4111
 池田支局 01557-2-2367
 本別支局 01562-2-2618
 新得支局 01566-4-5524
 札幌支社 011-261-2161
 東京支社 03-3544-1365

大樹実験場の格納庫内で公開された定宙滞空飛行試験用の無人飛行船(20日午前11時半、山下 偉撮影)



成層圏プラットフォーム実験機

無人飛行船を公開

全長68メートル 7月から本格試験

大 樹

【大樹】国が計画する無人飛行船による通信・放送、地球観測システム「成層圏プラットフォーム」計画の研究開発に伴い、定宙滞空飛行試験用の実験機(無人飛行船)が完成し、20日午前、大樹町多目的航空公園で報道関係者に公開された。同公園で7月から本格的に始まる飛行試験では、遠隔と自動操縦で巨大な機体を上空約4キロまで移動。一定の位置に常駐できる技術を確認する。機体は全長68メートル、膜材や動力、通信・観測機器に最新の科学技術が凝縮されている。(浅井文人)

同計画では、将来的に機体重量は6.4トンという外皮の膜材は丈夫で気密などの特徴を備えている。高度20キロの成層圏に50メートル程度の無人飛行船を十数機浮かべ、人工衛星のように通信や放送などに役立つ。定宙滞空飛行試験は、これに先立つ研究開発の一環。半年間で上昇・降下、回収などの飛行技術も確認。機体に搭載した機器により放送や地球観測試験を行う。

この日の公開は、試験を主に担当する独立行政法人・宇宙航空研究開発機構(JAXA)などが行った。

格納庫に収められた実験機は幅17.5メートル、高さ20

のプロペラは船体下部に2つ。高層の強風に負けない強力な電動式で、移動と方向転換を行う。船体下部には全地球測位システム(GPS)の補正受信機や飛行制御計算機などが搭載され、遠隔自動操縦が可能だ。

JAXAの総合技術開発本部・航空利用技術開発センターの清水亨センター長は「今後は地上確認試験の後、7月から雪の降る前までの間に、計20回のフライト試験を行う」と話していた。

21日には大樹町民にも飛行船が公開される。

置。「地産地消の日」を設定するなど地場産品の消費促進に力を入れる。ナガイモを手始めにJAXAによる農産物のトレーサビリティ(追跡可能性)導入を支援、他の農産物にも順次広げる。

生産者向けの②はジャガイモセンサーチューブ対策など。③はBSE(牛海綿状脳症)や鳥インフルエンザ、農薬事故などの危機管理マニュアルを作成。農家の安全安心対策への融資枠(5000万円)を設けた。④はナガイモネットなど生分解性資材の研究普及を強化することが目玉。

行動計画は毎年見直し

3カ年の施策展開を定め、消費者や生産者ニーズの変化、感染症発生などの課題に対応する。同プランと行動計画は市広報、ホームページで公開する。(栗田直樹)